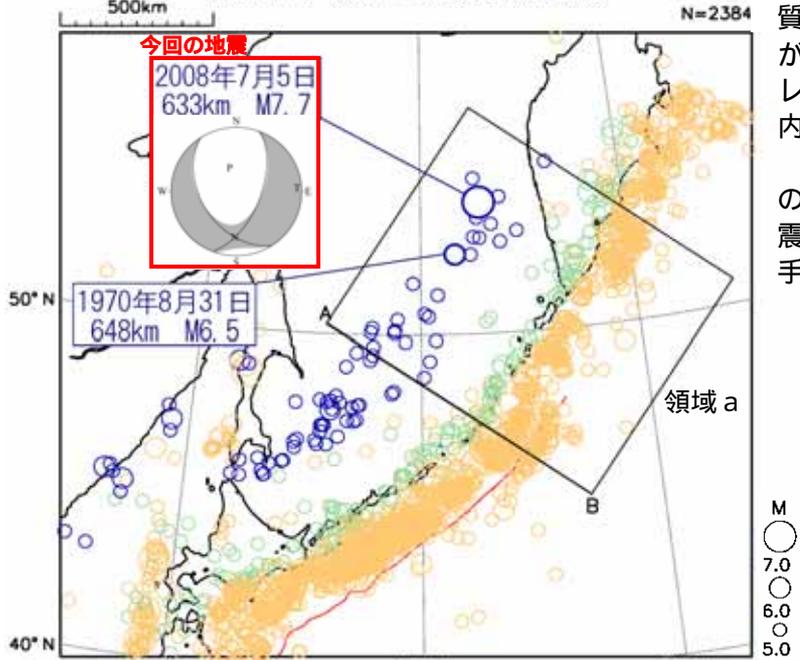


# 7月5日 オホーツク海の地震

震央分布図  
(1970年1月以降, M 5.0、深さ0~700km)  
1970 01 01 00:00 -- 2008 07 07 24:00

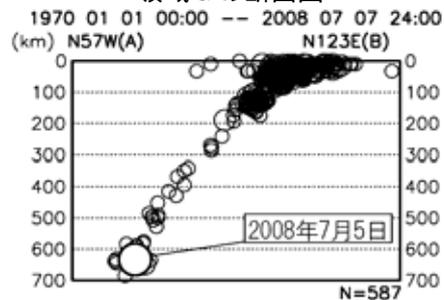


震源データは2003年12月まではISC、2004年1月以降はUSGSによる。  
発震機構はGlobal CMT解。

2008年7月5日11時12分、オホーツク海の深さ633kmでMw7.7(震源位置とMwは米国地質調査所[以下USGSと表記]による)の地震が発生した。この地震は、沈み込んだ太平洋プレート内部で発生した。この地震により日本国内で震度2~1を観測した。

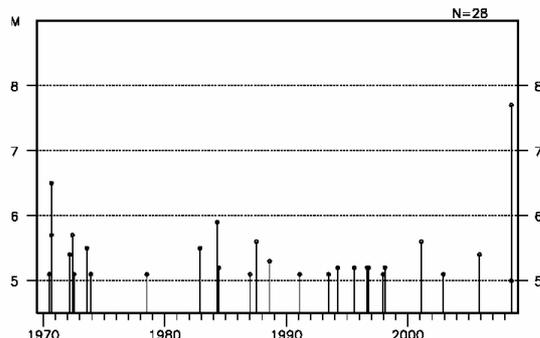
1970年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震源周辺では、1970年8月31日にM6.5の地震が発生しており、この時は北海道釧路市と岩手県盛岡市で震度1を観測している。

領域 a の断面図

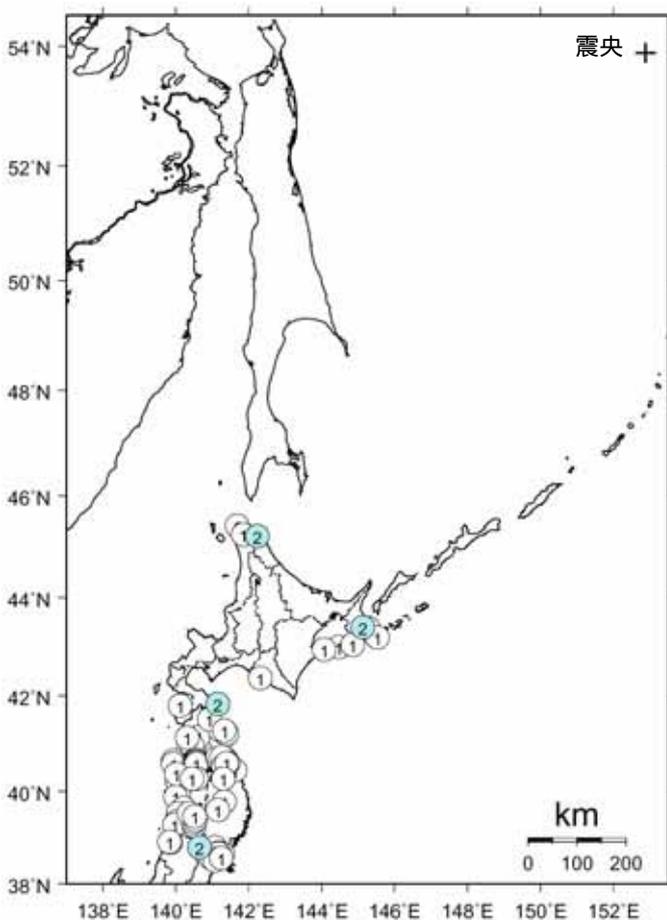


領域 a の地震活動経過図 (深さ300~700km)

1970 01 01 00:00 -- 2008 07 07 24:00

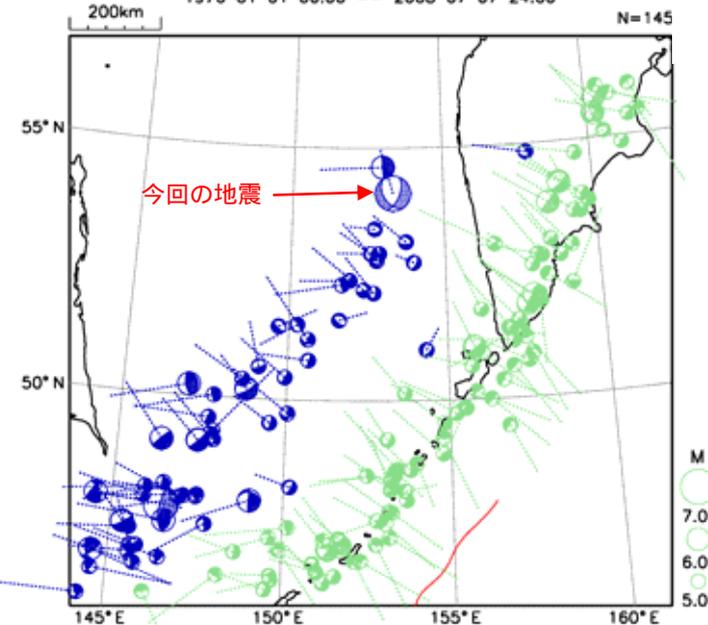


今回の地震の震度分布図



周辺の発震機構分布図 (Global CMT 解、1976年1月以降、Mw 5.0、深さ100~700km) 300km以深を濃く表示

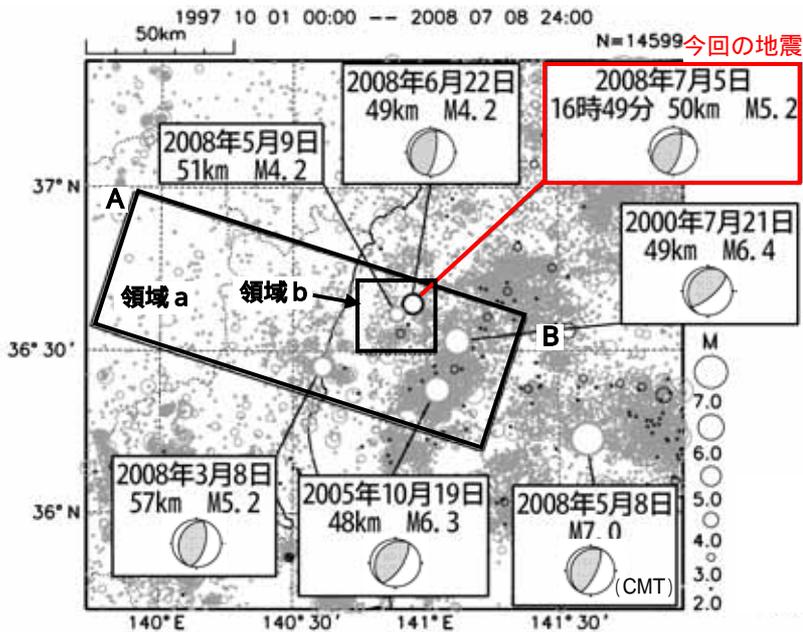
1976 01 01 00:00 -- 2008 07 07 24:00



発震機構解からのびる点線は、圧力軸の方向を示す。

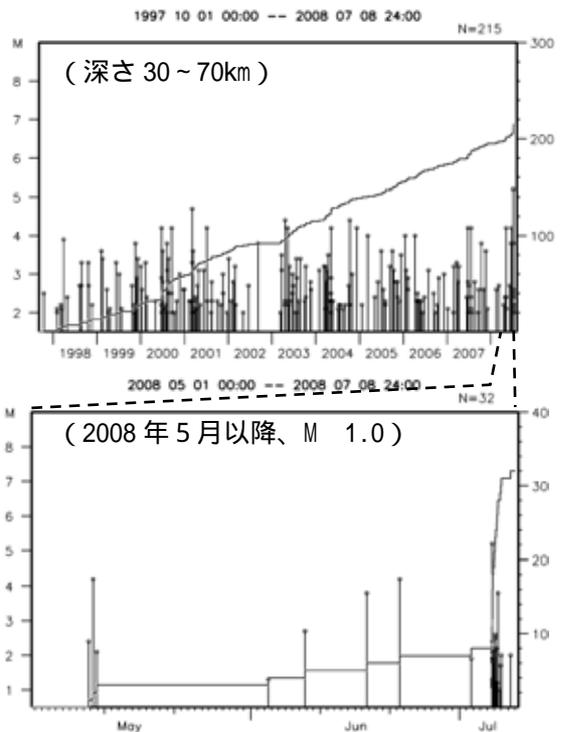
# 7月5日 茨城県沖の地震

震央分布図(1997年10月以降、深さ0~120km、M 2.0)  
(2008年6月以降の地震を濃く表示)

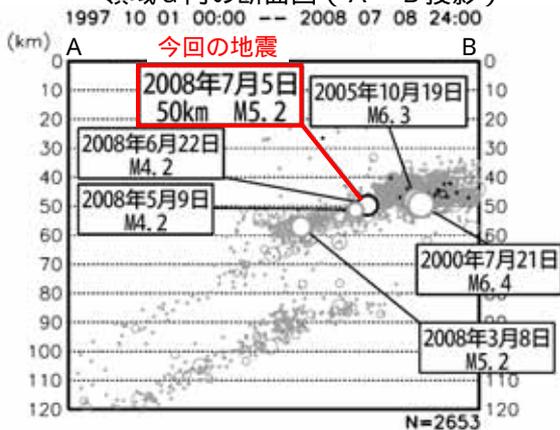


2008年7月5日16時49分に茨城県沖の深さ50kmでM5.2(最大震度5弱)の地震が発生した。発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。今回の地震の震源付近では、2008年6月22日にもM4.2(最大震度3)の地震が発生している。今回の地震の震源付近には地震活動が活発な領域があり、最近では2005年10月19日にM6.3(最大震度5弱)の地震が発生している。

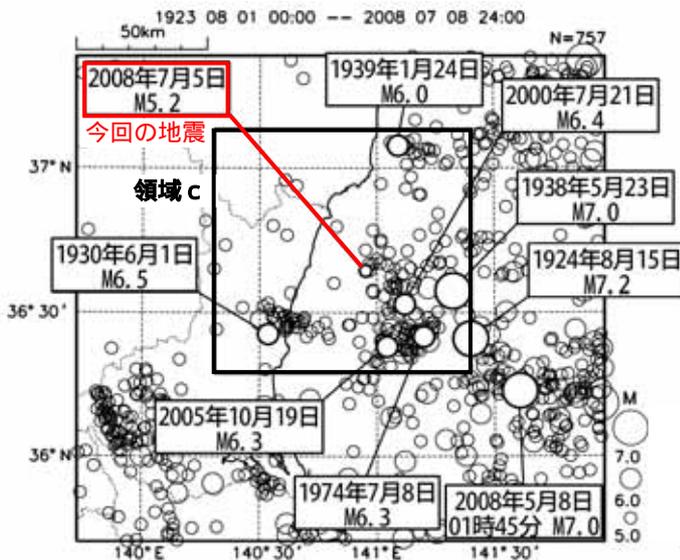
領域b内の地震活動経過図、回数積算図



領域a内の断面図(A-B投影)

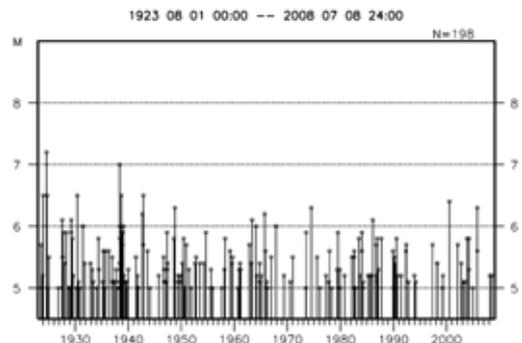


震央分布図(1923年8月以降、深さ0~120km、M 5.0)



1923年8月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近(領域c)では、時々M6クラスの地震が発生している。

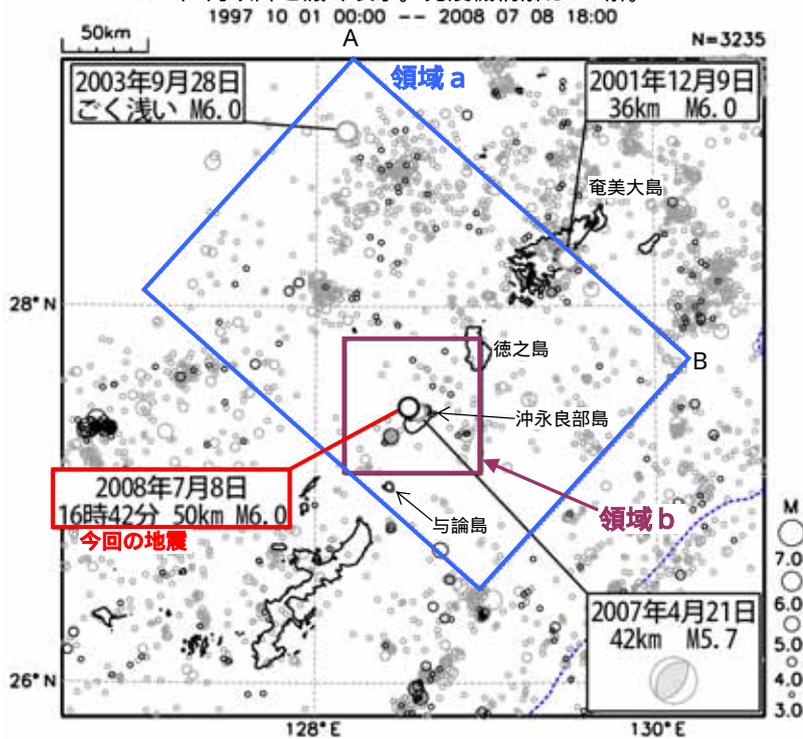
領域c内の地震活動経過図



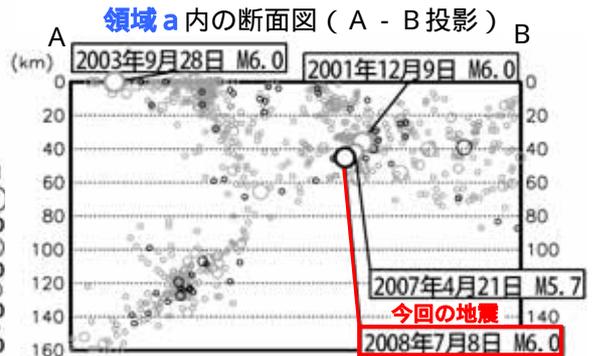
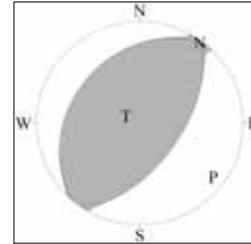
# 7月8日 沖永良部島付近〔沖縄本島近海〕の地震

〔 〕内は気象庁が情報発表に用いた震央地名

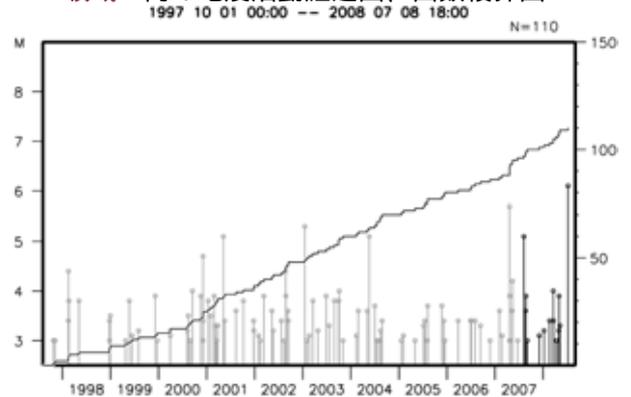
震央分布図（1997年10月以降、深さ0～160km、M 3.0）  
2007年7月以降を濃く表示。発震機構解はCMT解。



今回の地震の発震機構解[CMT解] (暫定)



領域 b 内の地震活動経過図、回数積算図

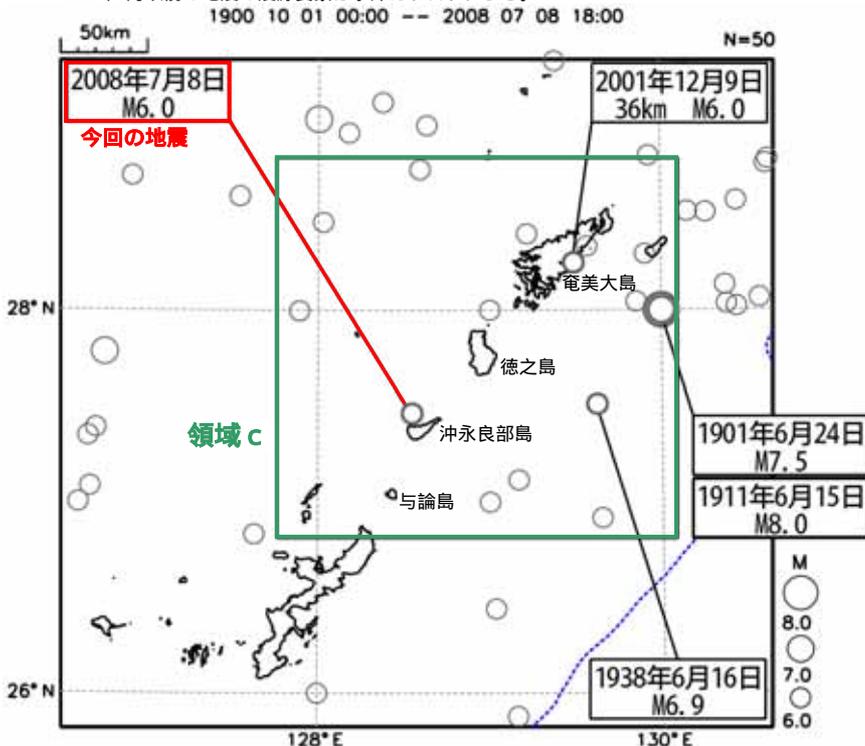


2008年7月8日16時42分に沖永良部島付近でM6.0 (速報値)の地震 (最大震度5弱)が発生した。発震機構 (CMT解)は、北西 - 南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界付近で発生した地震であると考えられる。

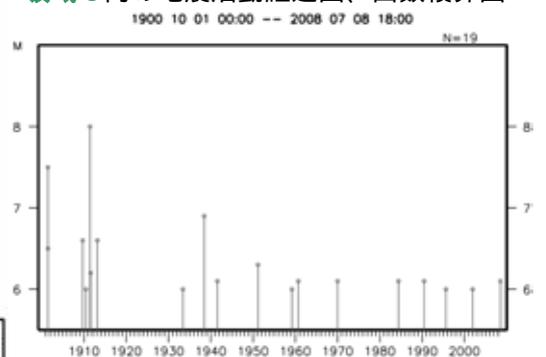
1997年10月以降の沖永良部島近海 (領域 b) の地震活動を見ると、M5以上の地震は2007年4月21日にM5.7 (最大震度4) など年に0~2回程度発生しているが、M6クラスの地震は発生していなかった。

震央分布図 (1900年以降、深さ0~200km、M 6.0)

1923年7月以前の地震の震源要素は宇津カタログによる。



領域 c 内の地震活動経過図、回数積算図



1900年以降の今回の地震の震央周辺 (領域 c) での地震活動を見ると、1911年6月15日のM8.0の地震 (死者12名、家屋全潰422棟 (「理科年表」による)) など、M6.0以上の地震が10年に2回程度の割合で発生している。